

実践ライブラリー：高等部音楽科「タンバリンをたたこう」



楽しく楽器をならせるけれど、周りタイミングが合う心地よさがちょっとわかりにくい



自分の感覚だけでなく、周りリズムやテンポが合って心地よさが広がる楽しさを味わってほしい。

① 言葉を選んで リズムをたたこう

音楽が聞こえると、自然に踊り出したりするけれど、自分だけの心地よさになりがちで、人と一緒にすると、タイミングがなかなか合いにくく、一緒に合わせることで味わえる心地良さや感動をどうしたら味わえるようになるかを考えました。

まずは、知っている食べ物やキャラクター、挨拶の言葉など、イメージを共有しやすい言葉の音韻で、リズムを表現することを繰り返して楽しみました。

文字の数ではなく音韻でたたくことがポイントです。

言葉の持つリズムやニュアンスが、結果的にいろいろなリズムやイントネーションを生むからです。

② (休符で)息を合わせて せ～のっ

自作曲「タンバリンをならそう・」
で 

最後の「」をタンバリンをたたきます。メロディーやコード進行を変更して、単調にならないように工夫しています。ポイントは休符で次の音の準備をすること、ここが大事です。

始めは対面する教師が、休符のタイミングでタンバリンを差し出します。生徒は、どこからタンバリンが出てくるかを見て、タイミングを捉えて鳴らします。これを繰り返す中で、テンポやリズム、休符などが体感できてきました。すなわち、いっしょに音楽する人と息の合う心地よさを体験することが少しずつできてきました。

おすすめポイント

休符は気持ちと体の準備
息を合わせて音楽を楽しむために

③ 友達と一緒に演奏しよう 息(タイミング)が合うから面白い

休符の後でたたく音を、一音ではなく、みんなの好きな言葉を聞き取り、それらを1拍の中に収めるように展開しました。よく知っていて、イメージしやすい言葉ゆえに、それを音で表す楽しさがあることもポイントです。



言葉が長いと1拍にうまく収まらないこともあります。休符のタイミングで、息を合わす感覚を感じることを何よりも大事にしました。

これによって、他者と一緒に演奏したり、タイミングを合わそうとするところに意識が通うことで、結果として最後の音が多少合わなくても、表現の面白さの共有につながり、一緒に表現を楽しむ可能性が広がりました。